

確かな学力を身につけ、自ら学ぶ生徒の育成

—はばプラを活用した学びの実感が得られる授業づくりの工夫を通して—

桐生市立相生中学校

現状

- はばプラに基づく授業について共通理解が不十分
- 教員間の情報共有が不足
- 教科部会の時間が不足

校内研修日や各教科の空き時間を活用



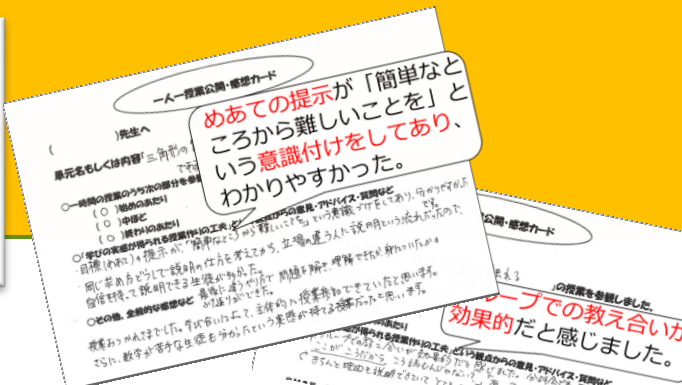
手立て 教科部会の活性化

1. 「はばプラ」の読み合わせ
2. 単元の流れや1単位時間の流れ等の共通理解
3. 授業を参観し合い、参観カードを活用して協議

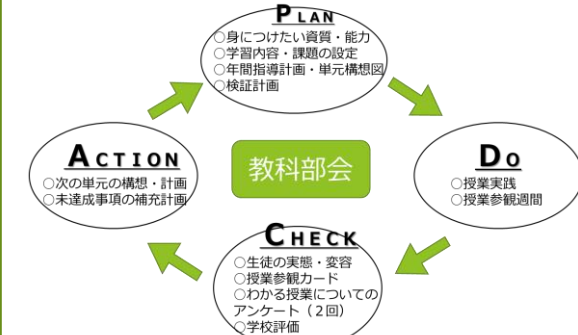
○授業参観週間 (例：10月)

月	火	水	木	金
10/1	2	3	4	5
8	9	10	11	12
15	16			

この期間中に空き時間を利用して最低でも1回は他の先生の授業を参観する



○研修を進めていくための基本的な流れ



成果と課題

- ◎ 見通しをもち、単元や1単位時間の授業を構想できるようになった。
- ◎ 生徒が課題に意欲的に取り組むようになった。
- 教科部会をさらに活性化させる工夫が必要である。

